

令和2年度 フロンティア科「出前講座」

- 1 日時 令和2年6月12日（金） 13:50～15:50（120分）
- 2 講師 宮崎県教育委員会 教職員課 人材育成担当 大山 和彦 主幹
- 3 演題 宮崎県が求める教師像
- 4 感想

1年H組 片平 日和

今回一番心に残った言葉が、「この国をよくしたいと思うなら、そして子どもたちの未来に影響を及ぼしたいと思うなら教師になりなさい。」というオバマ大統領の言葉です。私は今まで教師は大変だ、メンタルが強くないとやっていけない、辛いことが多い」というイメージが大きかったけど、今回の講話を聞いて教師は人と関わることで自分自身も大きく成長することができる、とても素晴らしい職業だと感じました。これからの社会は情報通信技術の発展やグローバル化、少子高齢化など大きく時代が変化すると言われています。だからこそ、大山先生は宮崎県が求める教師像として「学び続ける姿勢」が大事だとおっしゃっていました。それは新たな問題に直面したとき現状で満足するのではなく常に向上心を持って努力し続けられる教師であってほしいということ意味のかなと思いました。大山先生のお話を聞いているうちに、子どもとともに学び、ともに感動し、ともに成長できる教師という職業にとっても魅力を感じました。しかし教師になるには教員免許状を取得したり教員採用試験に合格しなければならなかったりと様々な壁があります。それを乗り越えるために夢を明確に持ってそれに向かって努力できる人でありたいです。今回の講話は自分の将来についても一度考えるいい機会となりました。

1年I組 河野 由歩

今回の出前講座で小学校の先生になるなら小学校教諭免許、中学校は中学校教諭免許というように、分野だけでなく学校の種類によっても教員免許が違うということを知った。私の従兄弟は今年小学校の教員試験を受験するのだが、採用までの過程を改めて知ることができ、とてもいい機会となった。また、「正解」に加えて「納得解」や「最適解」を求められる今の時代に対応した人材育成の中核を担う学校教育の場において、教師には学び続ける姿勢が求められていることを知り、教師は生徒とともに学び、成長していける職業であるということに興味を持った。講座の中で校長が求める理想の先生は「授業が分かりやすい」という回答が約9割であったという話を聞いたとき、以前ニュース番組で「年々教員希望者が減少しており、全国で学校職員、授業の質がともに減少しているのではないか」と言っていたのを思い出した。もしかすると、校長の回答理由にこのようなことも含まれているのではないかと思った。もしこれが事実だとしたら、今後は教員採用後の学校でのメンターチームによる学びというのはより重要視されていくのではないかと思う。子どもと学びともに感動し、ともに成長できる教師という職業についている方、就きたいという方を今はとても誇りに感じた。

